

田岡化学工業株式会社
2024 年 3 月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2024 年 5 月 27 日 13 時～13 時 35 分

当社説明者： 取締役社長 佐々木 康彰
取締役副社長事業支援室長 岩崎 明

[説明内容]

5 月 27 日に開示した全 21 ページの PDF に沿い説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202403_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<樹脂原料について>

質問 1 合弁会社の新工場について、足元の状況はどのようなになっているのか。

回答 現在試製造を行っており、本格生産開始はモノマーの在庫調整次第である。

質問 2 合弁会社の新工場について、減価償却費など費用の折り込みはどのようなになっているのか。

回答 減価償却開始は販売の動向次第であるが、合弁会社ではなく合弁相手先での生産になるため、当社の業績への影響はあまり大きくない。

<樹脂添加剤について>

質問 3 24 年度は増収予想だが、23 年度が減収となった要因は何か。

回答 ワニスについて、販売数量は前期比で増加したものの、主要原料の価格が市場の需給によって下落したことに伴う売価下落の影響である。

<業績について>

質問 4 23 年度の交易条件改善 7.2 億円の要因は何か。

回答 22 年度は期中から急激な原材料価格の上昇があり、値上げを実施してきたが、タイムラグがあり通期で寄与することができなかったためである。23 年度は通期にわたって交易条件の改善に努めたため、差益が発生している。

質問 5 23 年度は、原料価格の上昇を売価に転嫁できたということか。

回答 ご理解の通りである。

質問 6 為替変動について、24 年度予想での売上や利益に対する影響はどの程度か。

回答 当社は多くの原材料を輸入しているため、原材料価格という意味では、円安の場合業績インパクトがマイナスとなる。一方で顧客との間で原材料価格の転嫁を受け入れていただいているため、利益についてはニュートラルとみており、円高の場合も同様と考えている。

質問 7 為替の影響について、中期的にみるとオフセットされるが、短期的にプラスやマイナスが先に出ることはあるのか。

回答 可能性としてはある。

質問 8 24 年度の予想について、為替前提を 140 円から 23 年度なみの 145 円とした場合、利益への影響を定量的に示すことができるか。

回答 為替単独というよりはナフサ価格がどうなるかの影響が大きい。ナフサ価格が 23 年度と同じであれば、原材料価格と売価の綱引きにより、交易条件はニュートラルになると考えている。

以上